

まほら



2019年10月発刊 通巻452号
(題字) 薬師寺 高田好胤師

対談

現世に生きるとは

OTHER CONTENTS

- ・2019年事業紹介
- ・2019年度新入会員紹介



Special talk

俳優・ファッションモデル・デザイナー

一般社団法人奈良青年会議所第60代理事長

井浦 新 × 坂田 智哉

Special talk

理事長対談

坂田 智哉 (さかた ともや)

1981年生まれ。奈良市出身。一般社団法人JC奈良青年会議所第60代理事長。2010年度入会、2016年度奈良ブロック協議会事務局長兼総務委員長、2018年度奈良JC副理事長を経て現在に至る。奈良市内の株式会社博善社にて葬祭業を経営。「暮らしの新たな価値の創造と社会に貢献できる企業を目指す」と企業の理念に掲げる。趣味は書道や美術館めぐり。



坂田 まず自己紹介から
はじめさせていただきたいと
思います。私、一般社団法人奈良青年会議所
第60代理事長を仰せつ
かっております坂田智哉と申します。
どうぞよろしくお願いいたします。

井浦 井浦新です。色々
やっています。(笑) こちらこそどうぞ宜しくお願
いします。第60代理事
長ですか。すごい歴史で
すね。60代ってどのよ
うに何年ぐらい続いてお
たのですか。

坂田 奈良青年会議所は
1959年に創立し、本
年創立60周年を迎えま
す。萬師寺には、奈良青
年会議所創立のチャー
ターメンバーであられま
す高田好胤先輩や本日お
世話になつております小
林澤庵先輩はじめ多くの
先輩諸兄がおられます。
現在も、加藤君・村上君
が現役メンバーとして活
躍いただいており、井浦
さまと対談させていただ
く場所が萬師寺東京別院

坂田 井浦さんから奈良の印象に関してそのような視点で奈良を感じただいておることに、奈良に住む私たちにとっては、ありがたい感覚であり、とても新鮮に感じますね。

井浦 奈良のまちは傾やかな傾斜が多いですよね。例えば春日大社からゆるやかな傾斜であるとか、そのゆるやかな傾斜を歩むことで、当時から続く神域の力を感じたりとか、今でこそ境内の中に入りたり宿泊できたりとか、同修巡録の興福寺であるとか考えるるとあり得ないことができちゃうってすごいなって。

井浦 あと僕は、路地裏が好きで市内の方とかで、あてもなく歩いて、街灯が仄暗くなつて、いく感じを探してさまようのも好きで、特に奈良は今僕が立っているこの場所に日本本の都の始まりがあったんだなあ。・・・って思わず今のまちからでも感じる事が出来ますし、あとは奈良のまちの夕日でしょうか。なんででしょうか。うね、奈良って夕日が似合うまちで、夕日が似合う場所にまちを造ったのかなって思うくらい。この間も撮影をしてきました。もちろん早朝も僕のお気に入りですけど、

が毎日通うんです。そんな夕日が古来から美良を優しく見守ってくれている感じがたまらないのです。今回のこの広報誌「まほら」についてなんですが、高田後胤先輩に題字を書いていただいております。※題字をみて頂くと、井浦威蔵も感じますし、優しさも感じられるし、奈良らしい感じがしますね。

とのことで、不思議な縁を感じます。奈良青年会議所は20歳から40歳までの青年経済人の集まる団体で、地域のひとつづくり・まちづくりを通して明るい豊かな社会の実現を目指し、日々活動しております。会員の職種は、寺社仏閣の方や弁護士・会計士・建設業・デザイン業など様々な業種の方がおられます。

井浦 すごい。色々な業界の方が在籍されているんですね。

坂田 そうなんです。そして奈良県の中には9つの青年会議所がありまして、地域分担で日々いろんな活動を行っておりま

奈良に住んでいるのです。が、普段の日常生活の中で色々な歴史・文化に触れたことが、井浦さんの目に映る奈良のまちについてお聞きしたいのですが、奈良にも何度か訪れておられるという事で、奈良のまちの印象はどのように感じておられますか？

A photograph showing a group of people gathered around a traditional Buddhist altar. In the center, there is a statue of a seated Buddha or Bodhisattva. Behind the statue is a large, ornate golden shrine containing many smaller images. To the left of the shrine, a man in a blue shirt with white Japanese characters on the back is seen from behind. To the right, two men in dark suits are standing and looking towards the shrine. The setting appears to be a formal or semi-formal event, possibly a memorial service or a special ceremony.

～己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう～



井浦 新 (いうら あらた)

1974年東京都生まれ。98年に映画『ワンダフルライフ』に初主演。以降、映画を中心にドラマ、ナレーションなど幅広く活動。アパレルブランド『ELNEST CREATIVE ACTIVITY』のディレクターを務めるなどフィールドは多岐にわたる。第11回TAMA映画賞最優秀男優賞に選ばれるほか、9月27日より公開中の『宮本から君へ』に出演中。10月13日よりNTV『ニッポンノワール-刑事Yの反乱-』に出演。

るばとして奈良が再興されるようになると想いが込められていました。また「まほろばなひと」という意味もございます。ただ先ほど井浦さんもお話ししていたのですが古き良き奈良の歴史や文化を継承するため、国内外の観光客を受入れる設備を整えていかなくてはなりません。

井浦 でも確かに奈良に暮らしている人々からすれば魅力を伝える為に交通網を整備というかインフラを整えてほしいとは思っていますよね。

坂田 思っていますね。

井浦 ほかの県に負けないようには頑張ろうという活動や想いは伝わってきます。ただ、僕たちのような旅人として訪れる者にとっては手付かずそのままだから良いという見方もあるんです。確かに

坂田 ありがとうございます。何か自分が住み喜んでる地域に対して、深く温もりのあるお言葉をいただき、とても誇らしく思います。その他に、奈良のまちの魅力ってどのようなところがありますでしょうか。

井浦 先ほどもチラツと答えましたけれど僕はやっぱり夕日が、なんんで奈良の夕日は綺麗なんだもううつって、どこで見ても綺麗なのは確かなんですけど、この綺麗な夕日を古から沢山の人が見

に様々な遺構や遺物を貯めている環境に整えていた。手に入る場所で、手に入らぬ場所で、どちらも手に入る。それで、そこでも手に入らぬものはない。見ることの出来ない、けど確かにそこにいるという方が価値があるのかなと。だから奈良は特別だなと思います。

井浦 古代から考えたら日本人の文化はもっと古くから花開いていたと想うんですけど、その古代をちゃんと経てそこを下敷きにしながらも業敷からまた新しい文化を作つていって、ある意味奈良は始まりの地でありますから、その時代から考え方たら現代まで継続してきました力ってやっぱり何物にも代えられないものだと思ふんです。続けることがどれだけ大変かというその片鱗を少しでも感じ

続けていると思うと心が震えるんです。誰も見たことがないとか、秘境であるとかじゃなくて、文化が育まれた都で魅了されて、
坂田 あつとつい聞き入ってしまいまして(笑)
井浦 納良にも沢山の講義がありますがおられるじゃないですか。それこそ天平の時代からその技術を開拓まで継承し、今も造り続けてらっしゃる職人さんのお話しを伺うだけでも、本当にすごいことをされていますが、僕は役者をやっていて十年続けるだけでも大変なことで、それを奈良というのには一体どれだけ続けてきているのかと。
坂田 そうですね、私は先日漆職人の方から、古来からの技法についてお話を聞いた時、奈良の歴史の重みを再認識しました。

坂田 なるほど。ありがとうございます。
井浦 何度も思い知らされますよ。お寺にしてても神社にしても職人の手仕事にしてもそうです。僕が何度も足を運んでいたり吉野山で山の中を歩いていても、西行と出会ってしまったりするわけですよ。こんな山の中で突然どんと西行庵ができるたりすると、やっぱり普普通じやないなと思うんですね。そういったものが今現代の生活している環境

「……」



に遊んでいた環境の中に
それがあるってすごいな
と本当に思います。

坂田 奈良のまちの魅力
文化についてお話しした
だきました。奈良に住
んでいる人間の側に立つ
と、当たり前すぎて見え
ていないうま、気づいて
いない「奈良」がたくさん
あります。

井浦 とても贅沢だと思
います(笑)

坂田 そうですよね。私
も歩けばすぐに元興寺
や猿沢池という場所に住ん

に密接に隣り合わせに当たり前にあるのが、僕のような歴史大好き人間にはちょっととやっぱり普選じゃない場所なんですよ。僕なんかは写真でしか見たことのないようなものが隣にあるのが、子どもの頃当たり前のよう

REPRESENT NARA

Special talk

理事長対談

でおりまして、興福寺の五十二段、五重塔のあたりで小学生は遊ぶんです。たまに、音日大社・東大寺あたりまで縁り出すこともあります。名所寺社の中で遊び、夕方になると家に帰るという生活でした。奈良のまちをよくしたいという思いを持ちながら自分の中で当たり前すぎて見えていない部分が沢山ありました。

坂田 続きまして、私は今年のスローガンに「己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう」というフレーズを掲げました。60名の会員が自分の感性と美意識を大切にし、個性という部分で相反するところで個性が叫びにくい部分もあります。**井浦** なるほど。

坂田 私たち自身が育ってきた環境によって身についた感性や研ぎ澄まされた美意識が、今後ナショナルロジーの発達によってA-1と共に存していく社会が生まれてくる中、私たちが感性や美意識を大切にしなければ人間としての存在感が薄れ、A-1などに変わってしまうのではないかと感じます。井浦様も

井浦 そう。それを踏まえたうえで、磨くためにやるのはなく、**美意識**や**感性**というものは、自分の好きなことをことんやることが、そこに響いてくるのではないかと思います。自分なりではのやり方とか、仕事の考え方とか行動であったりが**美意識**もあると想うので、美しいものだけを見る力ではないと僕は思っていて、たとえどれだけ汗だくなつて汚い服を着て仕事をしていても、その人の心が美しい訳であり、それは自分やっていることに対して愛を持って続けられるかが、**感性**や**美意識**を豊かにするのではないかと思っています。

坂田 ありがとうございます。自分らしく生きる個性を叫ぼうということころなんですが、やはり組織という傳りの中で個性が薄れる時があります。奈良のまちづくりや人づくりにと、特に人づくりは個性豊かなメンバーへや未来の人材を育てていかたいと思っています。その個性を活かして自分らしく生きるには、という最後のお題です。

A photograph of a man with dark hair and glasses, wearing a light blue denim shirt over a white t-shirt. He is looking downwards and slightly to his left. The background is a plain, light-colored wall.



様々な環境の中でお仕事がされていると思いますが、感性や美意識を自身の中でどのように捉まえられて、大切にされているのかということを少しお聞きしたいと思います。

井浦 感性と美意識というのは、僕は逆に磨けるものではなくて後から磨かれて手についてくるもので、もちろんそういうものを鍛錬するため、豊かにするために、学ぶことは絶対にやるべきだと思思います。知つて経験して自分の教育していくところをしなければきっとスタートラインにも立てない。

は学ぶほど疊かれる訳ではなくて、きっとその中に
にある程度備わっているもので、それを字ぶことによつて、扉を開いていく
と思います。自分の中に眠つている感性は無限でゼロから生まれるものではないんですね。それを、学んで自分が知るのによつて、もしくは経験することによつて、もともと持つっていたその感性の扉が開かれていくことがあります。だから感性って開かれていくくん
が好きだとか興味があるという、心が動く事、動かす事を続けていくと、感性つて開かれていくくん

時も多々あります。メンバーの中には、会社や組織の枠に縛られたり、自分らしく好きなことをしながら生きていくことが難しいという者もいます。そんなメンバーに向けて、個性を活かし自分らしく生きていくにはどうしていけばよいと、お考えでしょうか?

井浦 どんな仕事でも絶対に面白さとかやりがいとかつて見つけられるはずなんです。仕事がつまらないとかやりがいがないって事ではなくて、自分がちゃんとそこを見ていないだけなのかなとも思うんです。与えられた

一つの仕事ってそんな半可なものではなくて、どんなものでも簡単な仕事なんではないし、どんな仕事でも絶対に誰かの為になりますし、それこそ絶対に自分の為になりますから。ちゃんと向き合っていれば、自分がやりたいと思った仕事ではなくても、その中にある面白さとかを見つけていく方が、後から好きになつた反動ってすごく大きいと思うんです。自分は役者をやっていますが、本当はどちらかというとものづくりをやりたかったんですねけど、ありがたいことにご

In Yakushiji Temple Tokyo

理事長対談

Arata Iura × Tomoya Sakata



るというような概念が俺の中には無かったので、突然にボーンと中に放り込まれて映画作りを一回やって、芝居をすることが面白いとかはまだ感心されてなかつたけど、映画作りの現場がすごい素敵だなというのは感じるところがてきて、沢山の人たちが関わりあってそこには上手い下手とか素人ベテランとかいっぱい入り混じって、でもみんなが一つに向かって切磋琢磨しているこの撮影現場が、なんて素敵な現場なんだろ、仕事なんだろから続けてみようって思えて、芝居が楽しいと思えたのは十年くらいしかったんです。いかがったんです。

とかまだわからない、続けてきて正直苦しいことしかないんですね辛くて苦しい、その先に何かあるんだろうっていうのを見たくて今まで続けたと思うんです。あとはわからないからやつてみる。苦しいけどそのままさの先に、もしかしたら何か光が見えるのかなって、例えば修行をするように、修行の先に向か開けるものがあるんじゃないかなという感覚で、どうか幸いから続けてみよう、よくわからないでも答えるなんかはやっぱり出なくて、それでも答えが出ないから、続けてるっていうふうにだんだん言葉にもできるようになつて、でも辛いことを続けてきたから、だんだんいつの間にかデビューの時より少し、視野が広

がってきて、現場の中で見る場所がいつの間にか広がっていてキャッチもできるようになつていて

坂田 幸くとも、苦しくても続ける事で何か光ができるようになつていて見えたり、呪めるものもあると

井浦 そう。そうなつた時にこれは、今まで自分は受け身だったんだなって自分からトライしていくと、失敗しながら怒られても自分から何か取りにいったときに、先ほどの個性を叫ぼうという「叫び」といは大声を出したりではなくて「行動」というふうに僕は感じたんですけど、僕の場合は「叫ぶ」というのは~~現実~~で失敗してもいいから行動を起こしていくこうといふ感じだったんだろうなとイメージしました。

仕事なんないので、辛いなあとかこの仕事続けていいのかなあこんな仕事を続けていいのかなと思つてゐる人は、そんな人ほど自分の足元をしっかり見つめることができ、その中に絶対何かがあつて、早落としているだけじゃないのかなと思います。



ることによって、時には失敗をして迷惑をかけたりとかした事も、結果的にそれをやったことが次のエネルギーになつて、好奇心も増してきますし、想いを持って行動をしてるね、独自のやり方や考え方を持ってをやつてると見られる、というのが個性を叫ぶってい葉と重なつてくるなと思います。自分から行動するということは、どんな仕事でも最初から面白い

井浦　行動を自分がからず
いるようで、まさに
その通りなんです。青年
会議所運動で重要なこと
は、率先して行動する事
なのです。

坂田 是非是非！奈良にお越しくださいます。お待ちしておりますので、厚く御礼申し上げます。

井着 ありがとうございました。奈良のお話を聞いていたら、また奈良に行きたくなります。今日も貴重な場所で対談させていただいて、奈良の薬師寺さんにも是非お伺いしたいなあと。

萬師寺東京別院での対談のご許可をいただきまして、小林先生にも心から厚く御礼申し上げます。

井浦 こちらこそ、楽し
かつたです。どうもあり
がとうございました。
坂田 そして本日はこの
対談いただきましてあり
がとうございました。

The image consists of two side-by-side photographs. The left photograph shows four men in a room with wooden walls and a red carpet. Two men are seated on a low bench, while two others stand behind them. One man is holding a white object with black stripes. The right photograph shows a similar scene in a larger room with a high ceiling and green plants hanging from above. A man in a dark kimono stands in the foreground holding a white object with black stripes, while another man in a blue shirt stands behind him. In the background, there are rows of wooden chairs and tables.

4月第一例会

HELLO NEW ERA ~IN NARA~

4月30日(月) 平成最後の日に一般社団法人奈良青年会議所は4月第一例会として企画例会「HELLO NEW ERA ~IN NARA~」と称しまして、奈良のまちに訪れて下さった外国人観光客の方を中心に「奈良の魅力や日本の伝統、奈良発祥文化の発信」を目指しに新しい時代に向けて事業をおこないました。

自らが住み暮らす国、地域の魅力を再認識し、「令和」の時代になってからもさらに精進してまいりますので、青年会議所運動へのご支援ご協力、またご理解のほど宜しくお願ひ申し上げます。



8月第一例会

まほろばざ～る NARA EXPO 2019

8月24日(日) 一般社団法人奈良青年会議所は8月第一例会として創立60周年記念事業「まほろばざ～る NARA EXPO 2019」を東京・青山の地にて開催いたしました。飲食・展示・体験・観光案内ブースを通して奈良の魅力をしっかりと体感できる設営をいたしました。また、東大寺、興福寺、薬師寺、春日大社の世界遺産4寺社の皆さんにも講話やトークセッションを通して奈良の魅力を発信していただきました。奈良JCメンバー一人ひとりが、奈良の魅力を東京から発信することが出来ました。また、本事業をお支えいただきました特別会員の皆さんにも心より感謝申し上げます



～己の感性と美意識を研ぎ澄ませ、個性を叫ぼう～

2019年度新入会員紹介

New Comer!!

1月入会



井村 高陽 大島 康孝 大宮 守雅 堤野 恭弘 西井 宏明

7月入会



井野 亮介 塗本 慎吾 米澤 弘朗 山本 浩貴

2019年度一般社団法人奈良青年会議所へ9名の同士が加わりました。

明るい豊かな社会の実現、奈良のまちのさらなる発展のため

会員同士切磋琢磨して精進して参りますので、

地域の皆様や先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますと共に

新入会員の成長を温かく見守って頂きますよう宜しくお願ひ申し上げます。



一般社団法人奈良青年会議所は創立60周年を迎えました。
これからも明るい豊かな社会の実現のため
奉仕・修練・友情の三信条のもと活動してまいります。

一般社団法人奈良青年会議所は明るい豊かな社会の実現のため
共に運動を展開していただける同士を募集しています！！

■入会資格

- 1、年齢が12月31日現在万20歳以上38歳以下であること。
- 2、奈良市・生駒市・田原本町・山添村に、自宅ないし会社（営業所・事務所など）があること。
- 3、他の青年会議所に所属していないこと。
- 4、青年会議所のメンバーとして人格・品格ともに優れていること。
- 5、国籍は問いません。

Home Page

<http://www.nara.jc.or.jp>

Facebook

facebook.com/narajc

Instagram

[narajc.171](https://www.instagram.com/narajc.171)

発刊 / 一般社団法人奈良青年会議所

〒630-8123 奈良市登大路町36-2 商工会議所会館4F
TEL 0742-26-0112 FAX 0742-23-5519